

# 鶴見のエスニシティ

～韓国・朝鮮のオールドカマー～

# 目次

- ・ 鶴見の歴史と移住の経歴
- ・ なぜ鶴見？
- ・ プル要因・プッシュ要因
- ・ 彼らを取り巻く様々な問題
- ・ まとめ

# 鶴見の歴史と移住の経歴

1867年 徳川15代将軍慶喜が大政奉還

江戸から東京へ改名

文明開化の影響で、鶴見は臨海部を埋め立て

→近代工業都市へと発展

1923年 関東大震災

1929年 世界恐慌

日本全体の産業界に大きなダメージ

## 1941年 太平洋戦争

鶴見は300機以上の米軍爆撃機に襲われ、市街地が一夜にして焼け野原に

## 1950年 朝鮮戦争

軍需景気から日本は高度経済成長期を迎える

⇒鶴見の新しいまちづくりが始まる

日本の土地調査事業という政策



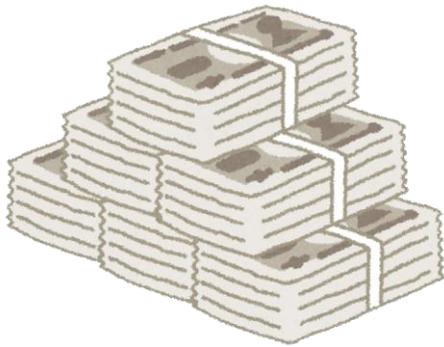
多くの朝鮮人農民の土地が奪われる



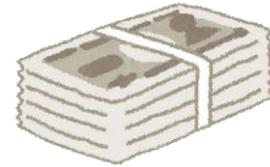
生活を求めて移住

# 日本の企業が安い労働力確保のために 朝鮮労働者を募集

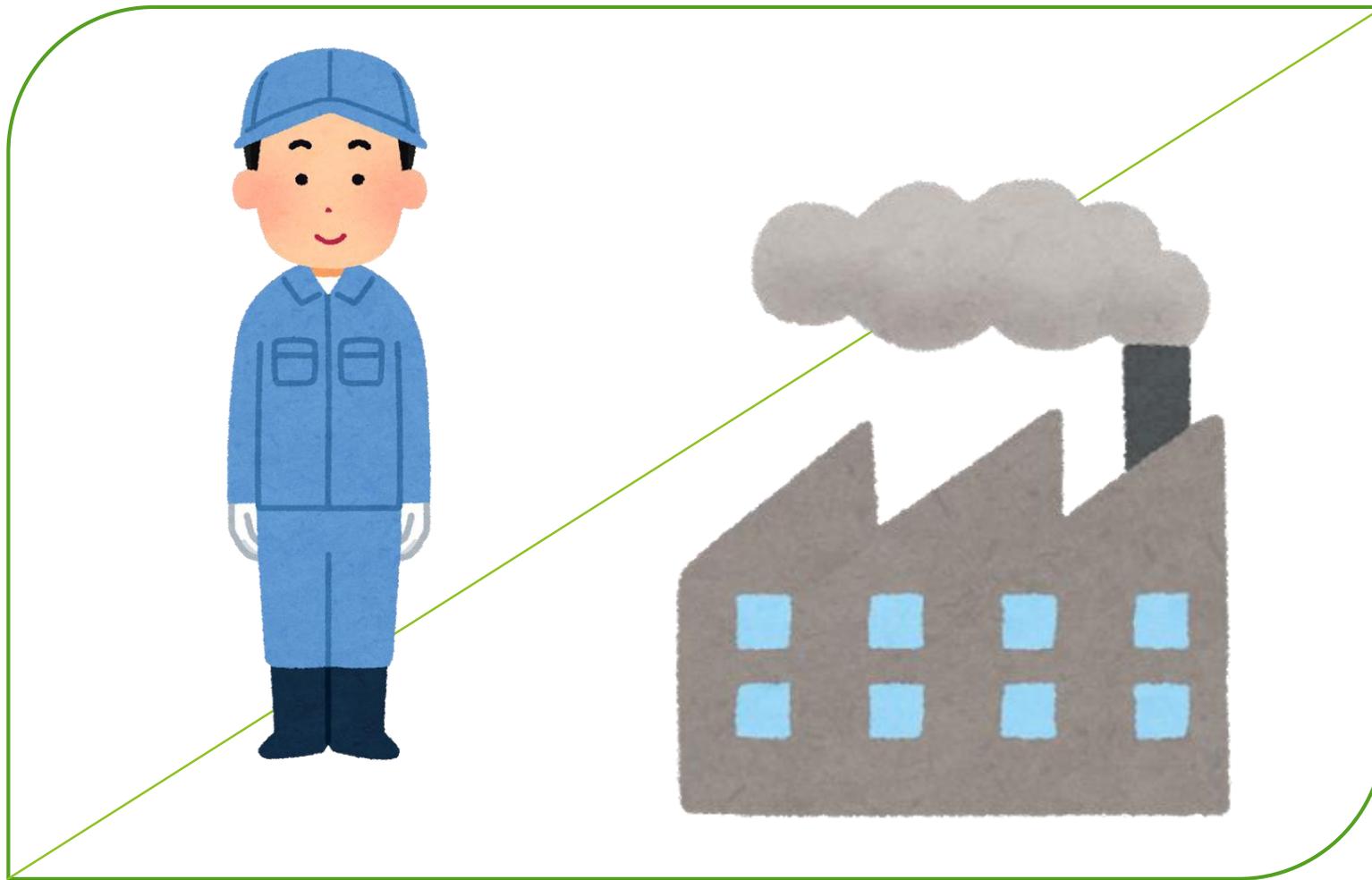
日本人



朝鮮人



# 仕事を求める朝鮮人



安価な労働者を求める日本産業

## 移民の日本での生活

1930年代半ば 治安対策 } 在日朝鮮人政策  
同化政策 }

協和会は皇民化政策を推進  
戦争へ積極的に動員

# 〈在日朝鮮人政策〉

朝鮮人の民族性を抹消し、日本人化することで  
植民地統治の安定化を図る

- (例) 国家神道の教養
- 朝鮮語の使用を禁止
- 創氏改名
- 協和会手帳の所持の義務化

# なぜ鶴見？

1859年 日米修好通商条約により横浜が開港  
そこで働く外国人が家族を呼び寄せる  
→居住する外国人が増える

在日コリアンのルーツ

砂利採取労働者や工場建設労働者の家族や子孫

# プル要因・プッシュ要因

## ▶ プル要因

- 1913年 鶴見川河口周辺の埋め立て工事を開始  
→埋め立て～工場建設までの一連の労働者  
が必要  
→朝鮮半島の人々が下層労働者として流入

鶴見区の臨海部.....京浜工業地帯の一部

⇒工場労働者が住む町として朝鮮の人びとが移住

▶ プッシュ要因

大規模な公共事業の継続  
相次ぐ工場建設

} 移住の継続

1935年 夜間朝鮮語講習会の運営 労働者会館開設  
→居住地域化

日中戦争突入後

労働力不足を補うための強制連行

## 日露戦争

- 多くの人間が兵隊として中国大陸へ派遣
- 日本国内の労働者の減少
- 朝鮮人を補充（出稼ぎ）
- 工場付近に住居を構える

朝鮮南部（済州島）を蔑視する考え

- 日本に残留する済州島の人びと

大日本帝国崩壊→兵士・植民地居住者の移住

## 彼らを取り巻く様々な問題

- ・ 韓国と日本とがどっちつかずで誇りが持てない  
(在日朝鮮人政策を差別する言葉があるほど)
- ・ 日本語がわからないことによる学習の遅れ  
+ 友人ができにくい
- ・ 韓国 (韓国人) への苦手意識
- ・ 外国語サービスはあるが、話せる人が限られている  
るので効率が悪い (例: 役所)
- ・ 日本の「暗黙のルール」がわからない  
(間違えると白い目で見られる)

## まとめ

鶴見に流入してきたのは戦時中

↳ 弥生時代から朝鮮との交流は始まっている

未だに韓国・朝鮮の人びとへの対応が不十分な部分があり、文化の違いによる行き違いなども発生している

互いを尊重し理解していく必要がある